

連続追及 内視鏡・腹腔鏡手術「こんな医者が危ない」

リウマチ 変形性膝関節症ほか「後遺症」が残る手術

大橋巨泉 「今週の遺言」最終回 「私も薬でひどい目に遭いました」

週刊現代

給料の金額によっては年金を減額されるので要注意

60歳からの「得する働き方」「損する働き方」

本医者が切りたがるけど
本当は手術しないほうがいい「がん」

糖尿病のジャヌピアは肝臓にダメージ
リピトールで床ずれに
咽頭がん 喉頭がん 食道がん
胃がん 大腸がん 前立腺がん

生活習慣病薬 病気別「副作用」一覧

「爆買いバブル」終了で銀座の高級デパートが泣いている
高血圧のミカルディスで失神
コレステロールのコレステロールの

定価430円
7月9日
Weekly Gendai
2016 July

7・10参院選

最新版「落ちる議員」「落ちそうな議員」の名前

衝撃の新事実 統合失調症の薬で85人も死んでいた
「うつ病」「認知症」の薬も考え方直したほうがいい

断つたほうがいい「薬と手術」
医者に言われても
それでも手術しますか、これでも薬飲みますか

大反響
第5弾



カラーバージョン
本物のアイドルがいた時代
吹石一恵 藤原紀香 武田久美子 斎藤由貴 石田ひかり



橋本マナミ

エロすぎるカラダを見よ!
愛人したい女No.1

矢吹春奈 未公開「ヘアヌード」

袋とじ 本物のグラビアアイドルの「ヘア」見ておかないと損をする!

古瀬絵理 見納め「完熟スイカツブ」

独立スクープ掲載下ろし 「これ以上はもう、絶対に脱げません」(本人談)

医者に言われても断つた ほうがいい「薬と手術」 それでも手術しますか、これでも薬飲みますか

第二部

リウマチ 变形性膝関節症 脊柱管狭窄症(腰痛)ほか

この手術をしたら一生、 「後遺症」が残ります



「親指の痛みは少なくなつたのですが、次は小指が痛くなつてきたんです。以前より痛みが強くなり、今では杖がないと歩くこともままなりません。『手術をすれば治る』と、期待していたものだから、がっくりきましたね。その後、手のリウマチもひどくなつたので、その医者から、また手術をすすめられたんだけど、断りました。そりや恐怖心はありますよ。だから今でも重たいものは持てないし、指先で何かをひっかけるような

ので医師に相談すると、手術をすすめられました。関節固定術という手術で、足の骨を削つて針金のようなもので縛るというもの。手術後は見た目もよくなつたし、こりゃいいやと思っていたんです」

手術は成功したはずだった……ところが、思わず「後遺症」が町田さんを襲つた。

「親指の痛みは少なくなつたのですが、次は小指が痛くなつてきたんです。以前より痛みが強くなり、今では杖がないと歩くこともままなりません。『手術をすれば治る』と、期待していたものだから、がっくりきましたね。その後、手のリウマチもひどくなつたので、その医者から、また手術をすすめられたんだけど、断りました。そりや恐怖心はありますよ。

だから今でも重たいものは持てないし、指先で何かをひっかけるような

「薬が病気をつくる」——大げさではなく、医師が本誌に語った言葉だ。特に、うつ病患者は、うつ病の薬が登場してから激増したことなどが知られている。医は「仁術ではなく商売」なのか。

手術後 別の場所が 痛み出した

約20年ものあいだリウマチに苦しんできた町田隆介さん(73歳、仮名)は、こう語る。

「元々私の家系はリウマチ持ちが多く、昔から風邪などをひいて体調が悪くなると、手の指や肘がこわばって痛くなつていました。それでもステロイドなどの薬で症状を抑えていたのですが、時間の経過とともに足の指関節が変形してしまい『外反母趾』のような状態になってしまったのです。あまりに痛みがひどい

医者に言わても断つたほうがいい手術とその「後遺症」

病名	入院の期間	手術方法	後遺症
リウマチ	1ヶ月程度	関節固定術と呼ばれ、壊れた関節を一つの骨にする手術などがある。骨を削った後、特殊な針金で縛り、変形した関節を伸ばす	削った骨が別の神経を圧迫し、手術前は問題なかった場所に痺れや痛みが出ることがある。手術後に雑菌が入り、感染症を発症するとさらに痛みが悪化する可能性がある
腱鞘炎	1日程度	炎症を起こしている腱鞘を切り広げることで、腱の通りをスムーズにする。手術自体は短時間で済むため日帰りも可能	腱鞘を切開する際に、その付近に存在している神経に傷をつけてしまう可能性があり、指が動かしにくくなったり、痺れが残ったりすることがある。術後に再発することもある
変形性膝関節症	2~3週間	内視鏡手術で、変形した半月板や軟骨、増殖した滑膜を切除する。変形がひどい場合は人工関節を埋め込む置換手術を行う	痛みがなくなる代わりに、膝が曲がらなくなるため、しゃがむことができなくなり日常生活に不都合が生じる。人工関節がうまく合わないと痛みや違和感が生じるケースもある
脊柱管狭窄症(腰痛)	1~3週間	腰の左右どちらかから、小切開で開窓して、内視鏡を挿入する。腰椎の狭窄した脊柱管を拡げ、神経の圧迫を取り除く	痺れや、麻痺が後遺症として残る可能性が高い。足が腫れたり、痛みがさらに強くなったり、歩くことができなくなる。手術前よりも症状が悪化し、車椅子生活になる人もいる
腰椎すべり症	1~3週間	骨がずれて神経が圧迫されている状態を治すため、内視鏡で椎弓を切除する。必要に応じて脊椎固定術を用いて骨を削る	手術をしても腰痛が消えず、下肢の痺れが残る場合がある。手術前よりさらに悪化し、歩行困難になる危険性もある。さらに今までなかつた頻尿症が突然発症することもある
変形性股関節症	2~3週間	皮膚を切開し、股関節の疾患箇所を内視鏡手術で取り除き、大腿骨の代わりとなる人工関節を取り付ける方法が主流	「脚長差」と呼ばれる、足の長さが変わりバランスが悪くなることで、歪みが生まれ新たな痛みが生じる。体内に金属を入れることによって、冷えやむくみに悩まされる人もいる
肩関節周囲炎	1ヶ月程度	関節鏡と呼ばれるチューブ状のカメラを肩に挿入し、モニターを見ながら、電気メスで関節の動きを妨げる滑膜組織や骨棘を削る	術後、肩関節が外れやすくなり、上腕骨骨折や肩関節脱臼を起こしやすくなる。手術をしても痛みが引く保証はなく、リハビリが不十分だと、さらに悪化する可能性がある

※入院期間はおおよその目安

「手術をしても痛みが軽減されない原因の多くが、ただ整形外科の片田重彦氏が言う。

「手術を救つてきた、かたよトイレに行く、ベッドから起き上がるだけで、電気が走ったような激痛を感じる。関節の痛みは、日常生活まで奪う深い悩みだ。特に年齢を重ねると、ちよつとした動きすら苦痛になってくる。

その痛みからなんとか逃れるため、医者からすすめられるままに手術をしたもの、「今度は別な場所が痛み出す」など後遺症に悩まされる人は少なくない。

関節の手術を多数こなしてきた整形外科医は、手術の難しさをこう語る。

「リウマチの手術は、やつてみると正直どういう結果になるか、分からぬんです。必ず一部の患者さんは『痛みが引かない』、『思っていたのと違う』と不満を漏らします。骨を削つたことで別

と感じても、しばらく絶つと必ず何かしら身体に不具合が出てきます。この患者さんの場合は、異物としてのプレートを入れていますので、身体がそれに拒絶反応を起こしてしまったのでしょうか。いわば脊柱だけで身体を支えている状態になり、それで痛みが増すのです。緊急時には手術は有効な手段ですが、慢性的な症状になりますと、完治しないことが多い。しかも術後、痛みが出るとそれに反応して身体の動作が不自然になり、そのことで全体のバランスがさら崩れるという悪循環に陥ってしまうのです」

なぜ、腰痛の手術はこれほど成功率が悪いのか。手術ではなく「AKA一博田法」と呼ばれるツボ押し治療法で数々の腰痛患者を救つてきた、かたよ整形外科の片田重彦氏が言う。

「手術をしても痛みが軽減されない原因の多くが、ただ整形外科の片田重彦氏が言う。

「手術をしてきた、か

から起き上がるだけで、電気が走ったような激痛を感じる。関節の痛みは、日常生活まで奪う深い悩みだ。特に年齢を重ねると、ちよつとした動きすら苦痛になってくる。

その痛みからなんとか逃れるため、医者からすすめられるままに手術をしたもの、「今度は別な場所が痛み出す」など後遺症に悩まされる人は少なくない。

関節の手術を多数こなしてきた整形外科医は、手術の難しさをこう語る。

「リウマチ同様、手術をしたことで後遺症が出る可能性がある変形性膝関節症(膝痛)。この手術は固まつてしまつた膝の関節を取り除き、人工関節を埋め込むのが主流となっている。人工関節の手術を経験した大林美香さん(65歳・仮名)は、こんな「後遺症」に悩まされていると

「痛みは軽くなつたのですが、今度は痺れが出てきて、ずっと膝に『違和感』があるんです。普通にしている時も痺れがあるんです。手術から半年が経つても消えません。それに膝が曲がらないので、しゃがむこともで

きず日常生活が前より不便になりました。正直『この後遺症と一生付き合つていかなくちゃいけないのか』と考えると気分が滅りますね。かといつて再手術して人工関節を入れ替えるのは怖い……」

人工関節は人間の身体とは違い、取り付けた後はただ摩耗していくだけだ。そのため4~5年経つと、自分の膝と金属の間にルーズニング(緩み)が発生し、痺れや痛みが出る。それを解消しようとして再手術に踏み切る人もいるが、症状が回復する保証はどこにもない。

脚の付け根が痛む変形性股関節症。この病気も手術によって人工関節を

こともできない。手術をしてからよけいに悪化してしまった。本当に手術なんかしなければよかつたよ」

トイレに行く、ベッドから起きて、電気が走ったような激痛を感じる。関節の痛みは、日常生活まで奪う深い悩みだ。とにかく手術をしたからといって万全の健康体

になるわけではない。だがそれ以上に怖ろしいのが、一度手術をすると、もう二度と、「手術前」の状態にすら戻らないことだ。

一生、消えない違和感

入るが、その後遺症に悩まされている人は多い。アゼガミ・カイロプラクティック治療室の畠上和彦院長が言う。

「うちにもよく人工関節の手術をしたために症状が悪化した患者さんがいらっしゃいます。中にはいつも車椅子生活になつておかしくない状態の方もいる。

184

担当医の診断ミスです。一般的に医者は、MRIを撮影して「痛みの原因は背骨」だと診断し、すぐ手術をする。でも実際は、背骨の下にある仙腸関節に原因がある場合が多いのです。

MRIというものは、背骨のでっぱりや変形はわかつても、そこが痛みの原因であるかどうかを教えてくれるものではない。原因箇所がはつきり医者の経験と診断力が分からぬまま手術をしてもそれはよくなりません。その意味でも、やはり医者は画像に見えるものが肝心なのです」

医療が進歩した現在においても、腰痛の85%は原因不明といわれる。もしかわらず大半の医者は画像に見えるものがすべてだと思い、手術をすすめる。

望クリニック整形外科の住田憲是院長は、この風潮にこう苦言を呈す。「たとえば、別に腰に痛

くことだ。が、一度手術をすると、もう二度と、「手術前」の状態にすら戻らないことがありますね。かといって再手術して人工関節を入れ替えるのは怖い……」

人工関節は人間の身体とは違い、取り付けた後はただ摩耗していくだけだ。そのため4~5年経つと、自分の膝と金属の間にルーズニング(緩み)が発生し、痺れや痛みが出る。それを解消しようとして再手術に踏み切る人もいるが、症状が回復する保証はどこにもない。

脚の付け根が痛む変形性股関節症。この病気も手術によって人工関節を

「とにかく人工関節にすれば楽になるから」とすすめてくる医者がいますが、骨粗しそうの人には人工関節を入れても緩んでは楽になるから』とすすめます。それでさらに悪化させてしまう。短い診察時間で手術を決めてしま

「『とにかく人工関節にすれば楽になるから』とすすめてくる医者がいますが、骨粗しそうの人には人工関節を入れても緩んでは楽になるから』とすすめます。それでさらに悪化させてしまう。短い診察時間で手術を決めてしま

「『とにかく人工関節にすれば楽になるから』とすすめます。それでさらに悪化させてしまう。短い診察時間で手術を決めてしま

「最初は手術が成功した

ルニアを調べなかつたんでしょう」「回を重ねるごとに手術は難しくなるから、一度キチンとほかの部分も検査しました。

結局、その医師に手術をしてもらい、ヘルニアは完治しました。前の医師が丁寧に治療をしてくれていれば、体にメスを入れるのは一度だけで済んだのに……」

第一部でも述べた通り、腹腔鏡手術には危険がつきもの。とくに女性の腫瘍に対して安易にこの手法を用いることにはリスクがある。岩手医科大学附属病院産婦人科の杉山徹教授が言う。

「腹腔鏡手術は、あくまでも良性腫瘍に対して行うもの。それを、がんに対して使ってしまうのは問題です。

たとえば卵巢に腫瘍が見つかった場合、それを良性の卵巣腫瘍だと思つて腹腔鏡手術を行つたとすると、これが実際には問題です。

その腫瘍が卵巣がんだつたとすると、人为的に、がんを腹腔内に広げてしまうことになるのです。

リンパ浮腫が怖い

早期がんで済むはずが進行がんになつてしまふ。こういう事例は実際にあります

「言われるがまま」ではなく、それが本当に必要な手術かどうか考えるべきでしよう。しかも高度異形成は、別の検査法では、「上皮内新生物」と診断されることが多く、その場合、がん保険も適用されにくい」

また、切ることによつて術後のQOL(生活の質)が著しく低下するケースについても、事前によく知つておく必要がある。吉川氏が続ける。

「乳がんの場合、がんが大きくなるとリンパ節に飛ぶ懸念があるため、脇の近くのリンパ節を取つてしまつこともある。

しかし、そうすべきかどうか、その後の人生を含めて考えなくてはいけない。リンパ節を取ると、

子宮頸がんや子宮体がん、乳がんといった女性に特有のがんでは、「切りたがる医師」がいることに注意が必要だ。医療コンサルタントの吉川佳秀氏が言う。

「子宮頸がんの場合、病理医が細胞の状態に1～5のグレードをつけます。1は良性で、5はがん。3～4が『高度異形成』と呼ばれ、がんになつていいけれどその前段階という状態です。

がんの手術は医師にとっておカネになるから、とくに開業医は高度異形成の段階でも『今のうちに取つてしまいましょう』と手術を提案しがちです。しかし子宮を取るというのは本人にとって大きな決断です。『医師

に言われるがまま』ではなく、それが本当に必要な手術かどうか考えるべきでしよう。しかも高度異形成は、別の検査法では、「上皮内新生物」と診断されることが多く、その場合、がん保険も適用されにくい」

また、切ることによつて術後のQOL(生活の質)が著しく低下するケースについても、事前によく知つておく必要がある。吉川氏が続ける。

「乳がんの場合、がんが大きくなるとリンパ節に飛ぶ懸念があるため、脇の近くのリンパ節を取つてしまつこともある。

しかし、そうすべきかどうか、その後の人生を含めて考えなくてはいけない。リンパ節を取ると、

10人に3人が『リンパ浮腫』になるのです。腕が普通の人の2～3倍の太さにパンパンに膨れ上がります。重いものは持てず、運転もできず、日常生活の基本的な動作もままならなくなります」

子宮頸がんの場合は、骨盤のリンパ節を取つた後、足にリンパ浮腫が出ることもある。足にリンパ浮腫が出ると、まるで「ゾウの足」のように膨れ上がり、こうなると歩くことすら覚束ない。

手術でQOLが下がること、そして二度と元通りに戻らない場合が多いことは、意識しておいたほうがいい。

東京都在住の古沢美紀さん(46歳・仮名)は、子宮筋腫を患つたが、医師の「説明不足」についての怒りを語る。

「あるときから、排卵日が近くなると下腹部が異様に痛むようになります。検査を受けると、6cmの腫瘍が5つもあつた。手術は患者の人生を左右する。そして、繰り返すが、手術が身体に与えたダメージは、二度と元には戻らない。患者はじつり話し合える医師を求めるが、実際は「こんなもんだろう」と安易な判断をする医師も少なくない。患者も知識を持つて対抗する必要がある。

手術は患者の人生を左右する。そして、繰り返すが、手術が身体に与えたダメージは、二度と元には戻らない。患者はじつり話し合える医師を求めるが、実際は「こんなもんだろう」と安易な判断をする医師も少なくない。患者も知識を持つて対抗する必要がある。

衝撃の事実が明らかに 統合失調症の薬で85人死んだ

死亡報告は類似薬の3倍

「今回、我々の調査で統合失調症薬ゼブリオンの

発売以来、約2年間で服用者の死亡者数が85人もいることがわかりました。

ところが、製薬会社の主張は一貫して「適正に使えば安全だ」というもの。ゼブリオンの服用者の死亡報告は類似薬に比べても非常に多い。一世代前の類似薬インヴェガのコンスタの倍以上、同成分の内服薬インヴェガの3倍以上の死亡報告がある大変危険な薬です。このまま死亡者が増え続け

るのを黙つて見てているわ

けにはいきません」

こう語るのは認定NPO法人「地域精神保健福祉機構」の丹羽大輔氏だ。

丹羽氏は6月21日、ゼブリオンについての死亡報告をまとめ、厚生労働省に原因究明を求める要望書を提出した。

ゼブリオンは注射剤で

あり、1ヶ月に一度、肩

か臀部の筋肉に打つだけ

で、その効果がおよそ1ヶ月持続するというもののため、毎日薬を服用する必要がなく、飲み忘

れる心配もないとの触れ込みで、画期的な新薬として期待されていた。

しかし、13年にゼブリオンが発売されて以降、服用者の死亡報告が相次いでいる。

「14年4月に厚生労働省からブルーレター(安全性速報)がゼブリオンに對して出されました。これを受け、製薬会社側は、医療関係者に対して『適正な使い方をするように』との注意喚起と、死亡のリスク上昇などにつながる多剤併用を防ぐため、添付文書の改訂も行いました。だが現実には、そ

れ以後も死亡報告は後を絶たなかつたんです」(前出の丹羽氏)

急性心筋梗塞、低体温、窒息死などいくつか死因が明らかになつていてもあるが、ほとんどの死因は不明。だが、「數が異常」であることは間違いない。

新薬の副作用は、「出して数年を経過しないとわからない」と言われる。この薬も、最初はわからなかつた副作用の事例が、ここにきて集まってきたと推測できる。

もう一つ、この薬には大きな問題があると、前

出の丹羽氏が指摘する。

「通常、薬の投与は少量から初めて、様子を見ながら次第に増やしていく

ます。ところがゼブリオノンはまつたくの逆。初回に最大量を投与して徐々に減らしていくのです」

製薬会社側の主張は「効果を早く、持続して得られるようにするための投与法」というものだ。ゼブリオンの初回投与量として設定されている量が、どの人種、どうい

う体格の人に対して治験

量が増えたときと同様の血管の反応が起きたという研究結果もあります」
（前出・マーチャント氏）
『日本人だけが信じる間違いだらけの健康常識』などの著書がある薬学博士の生田哲氏もこんな例を挙げる。
「1957年、アメリカのブルーノ・クロツファードという研究者が興味深い報告をしています。ある男性が悪性のリンパ腫にかかってしまい、末期症状となりました。

「鎮痛剤の偽薬を飲んだときには、本物を服用したときと同様、脳内でエンドルフィンという神経伝達物質が分泌されることがわかっています」
偽の薬であっても効果は絶大——ならば、多くの患者が飲んでいる薬や受けている手術の「効果」の多くも、実のところ本人の「自分は治る」という信念によって引き起こされているのではないか。



病院に行くから病気になる

薬についても、服用者が「効き目がある」と考えることが効能を生み出すことが知られており、これは「プラシーボ（偽薬）効果」と呼ばれる。

「米国在住のボニー・アンダーソンという女性は75歳のときに転倒し、背骨にヒビが入つてしまつた。彼女は背中の痛みに悩まされ、立ち上がることもできなくなりました。

勇気を出して薬と手術をやめるために知つておこう

剰投与にならないよう
に、患者さんごとに量を
調整して処方しています。
しかしそうすると、健
保組合に『増量規定を破
つて』いるから、保険申請

は認められない』と却下されてしまう。たった3カ月間で400万円もの損失を余儀なくされたこともあります』

第一部でも登場した長尾クリニツク院長の長尾和宏医師など、これまで少なくならぬ医師が、この「増

1日、ようやく厚労省は「アリセプトなどの抗認知症薬の少量投与を認めること」という通達を出した。認知症には、薬のいらぬ人も少なくありません。医師が皆増量規定

を守ることがいい医療だ
と思ってる国なんて、
日本以外にはないです
よ」（前出・長尾医師）

このようにメンタルの状態が健康に強く影響する例は数多く見られます。こう話すのは『病は気から』を科学する』を上梓したイギリスの科学ジャーナリスト、ジョー・マーチャント氏だ。

は気から」と言われるからもわかるとおり、これは単なる故事ではなかった。実際、「もう病気は治った」「自分は健康だ」と思い込むことによつて本当に症状が緩和されるということが、科学

つており、「飲んだ人の半分に効果が出ればいい」と処方しています」つまり、患者は多くの場合、「思い込み」よりも効果が薄いような薬を飲み、不要な手術を受けているケースも少なくない。マーチャント氏が見てきたなかにも、まさに「ムダな医療行為」を示す事例があった。

「薬害や麻醉障害、手術での神経損傷といった問題が生じたり、患者が病気だと自己暗示をかけることで疾患が起こつたりする。こうした『医原病』はきわめて恐ろしい。米国の公衆衛生学の権威、故・バーブラ・スターフィールド教授の00年の研究によれば、不要な手術で1万2000人、院内感染で8万人など、医原病による米国での年間の死者は22万5000人に上る」とされています」

今やアメリカでは、患者の「薬漬け」脱却のため、偽薬をあえて使う試みも始められています。

薬や手術の効果は必ずしも大きくなく、そこには患者の「信念」が関係していることがすでに科学的に証明されている。ならば、無駄な薬と手術を勇気をもつてやめることもできるはずだ。